

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応



強風注意報・暴風警報

強風注意報:
平均風速が13m/sと予想される場合

暴風警報:
平均風速が18m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨によって被害が起こる
おそれがあると予測される場合。

・表面雨量指数基準 10
・土壌雨量指数基準 102

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる
おそれがあると予測される場合。

・表面雨量指数基準 20

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

やや強い雨 10以上~20未満	強い雨 20以上~30未満	激しい雨 30以上~50未満	非常に激しい雨 50以上~80未満	猛烈な雨 80以上~
雨の音で話し声が良く聞き取れない。 ●ザーザーと降る	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。 ●どしゃ降り	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。 ●バケツをひっくり返したように降る	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 ●滝のように降る	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。 ●恐怖を感じる ●息苦しくなるような圧迫感がある

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、
気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆ 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆ 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆ 非常時持出品を準備しておく。



- ◆ 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆ 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- ◆ 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆ 危険な地域では、いつでも避難できるように準備をする。



地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、町中の排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫	大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれて起きる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。
内水氾濫	その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まって起きる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

警報・注意報等の種類

洪水や高潮の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。

水位にともなう判断基準イメージ

